ED〝普段着で〝受診を

内服薬治療で改善

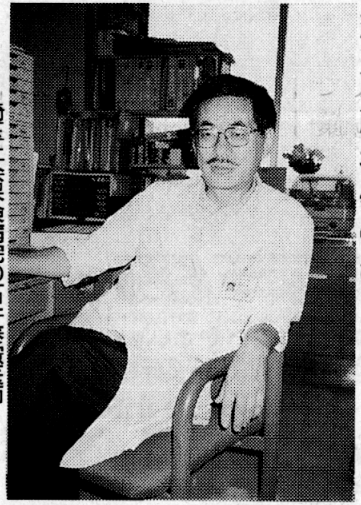
受診者の8割が「満足」

男性の勃起（ぼっき）障害（ED）の治療薬「バイアグラ」が日本で発売されて二年たった。これまで医療機関で新たに処方を受けた患者数は約四十万人と推定されているが、県内でもバイアグラによるED治療が進んでいる。

埼玉社会保険病院（さいたま市北浦和）には、このところ月に三十～四十人のED患者が訪れる。主訴は「勃起が弱い」が多く、年齢は四十～七十代、とくに団塊世代が多い。同病院泌尿器科の石井泰憲部長はED受診患者三十人を抽出し、バイアグラの治療効果についてアンケート調査した。その結果二十八人から回答があったが、治療効果は二十四人が「有効」で、79・8％の人が「満足」、パートナーも83・3％の人が「満足」と答えている。「重い副作用もなく、治療効果として満足すべき結果」と石井部長は話す。

EDは陰茎に流れ込む血液量が不十分なために起こる。関連性の高い危険因子は、生活習慣病の糖尿病、高血圧症、高脂血症、心臓病のほか、うつ病や脊髄（せきずい）損傷、前立腺（せん）の手術、それに喫煙、飲酒、ストレスなど。日本では四十～七十歳の男性の半分以上、約一千万人がEDと推定されている。

バイアグラは経口ED治療薬。陰茎の海綿体平滑筋を緩ませて血流を増大させるとともに、勃起を阻害するPDEという酵素の働きを抑える。二五、五〇ミリグラム二種類の錠剤があり、性行為の約一時間前に服用する。自由診療なので保険はきかない。性的刺激を受けて効果を発揮するので、いわゆる催いん剤ではない。



埼玉社会保険病院の石井泰憲医師

バイアグラは硝酸薬あるいは一酸化窒素供与剤（ニトログリセリンなど）と併用すると血圧をさらに低下させるので、狭心症や心筋梗塞（こうそく）の患者には使わない方がよい。

埼玉県済生会栗橋病院（北葛飾郡栗橋町）の遠藤康弘副院長（循環器科・内科部長）は、循環器系疾患がありEDでもある患者を診療しているが、「狭心症や心筋梗塞は六十歳前後に多い。バイアグラを使っている年齢層は今後そうした病気になる可能性がある。症状が出たらきちんと医師に申告すること」と注意する。

県の人口構成からみるとED患者は今後さらに増えそうだ。県内に病院も一千軒近くある。石井部長は「病院では看護婦やスタッフもみな慣れている。恥ずかしがらず最初からEDといって〝普段着のままで〟受診を」とアドバイスしている。